

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.47 **新**春



COP21/MOP11が開催されました（関連記事p.2,3）



環境フェスティバルにて「低炭素食材キャンペーン スタンダリー」を実施（関連記事p.6,7）



アースパレードに参加しました（関連記事p.7）



c o n t e n t s

2・3 特集

京都議定書からパリ協定へ
地域の温暖化対策は一層重要に

4・5

夏休み省エネチャレンジ2015表彰式
を開催しました
夏休み省エネチャレンジの報告を行います

活動REPORT

6・7

低炭素食材で未来を選ぼう！
低炭素食材選択キャンペーンを実施しました。
京都環境フェスティバル2015に出展しました

COP21に祈りを込めて、アースパレード京都

8

お知らせ
低炭素食材選択公開シンポジウムのお知らせ
退職のご挨拶



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

京都議定書からパリ協定へ 地域の温暖化対策は一層重要に

気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）が開催され、12月12日にパリ協定が採択されました。現地にて会議に参加された気候ネットワーク代表の浅岡美恵氏に、今回の協定の意義や内容についてご寄稿いただきました。

■ 京都議定書から「パリ協定」へ

科学者たちが人間活動によってもたらされる地球温暖化／気候変動の悪影響を警告して大気中の二酸化炭素濃度を計測し始めたのは1958年。半世紀以上前になります。気候変動枠組条約が採択されてから四半世紀が経ちました。1997年に採択された京都議定書は、まず先進国から、具体的な数値目標をもって温室効果ガスの排出削減を約束し、これを達成することを合意したのです。国連という場で将来世代に深刻な影響を及ぼす温暖化の被害を最小化していく確かな一歩として、私たちに希望を与えたものです。

けれども、アメリカはブッシュ政権に代わるや、交渉から離脱してしまいましたし、日本も第2約束期間の削減目標を持つことを拒み、事実上、京都議定書から離脱してしまいました。アメリカや中国が削減義務を負っていないのだから不公平、日本は、経済成長にはエネルギーが必要、排出削減は国際競争力を低下させる、再エネはコストが負担というのが理由です。その一方で、原子力と石炭への依存度を高めてきました。

そんななか、今年12月、パリでCOP21が開催され、12日夜（現地時間）、パリ協定に至りました。大会議場を埋め尽くした各国代表やNGOなどが何度も総立ちとなり、長く拍手が止みませんでした。

■ 温暖化対策とは省エネと再エネ

温暖化対策とは、家庭でも事業所でも「省エネ」を進め、化石燃料から「再生可能エネルギー」に転

換していくこと、とりわけ石炭火力を減らしていくことです。また、福島第一原発事故を経験した私たちは、原子力からも脱却しようと考えています（※）。日本は化石燃料を輸入していますので、国としても、また事業所や家庭でも、経済的にもメリットがあるものです。また、建物の断熱を改良すれば電気代やガス代が安くなり、快適な住まいとなります。少し前まで、再生可能エネルギーは設置費用が高かったのですが、ここ数年の間に、急速に安くなりました。福島第一原発事故も、世界の再エネの拡大に大きく影響しました。EU諸国や一部の途上国で積極的に推進政策がとられてきた結果ですが、パリ協定ができ、今後ますます普及していくでしょう。自動車に依存しないまちづくり、地域のものを地域で食べることも、意義あることです。温暖化に適応していくことも重要になっています。

「パリ協定」を採択！世界全体で 気温上昇を2℃（1.5℃）以内に

このように待ち望まれたパリ協定とCOP21の決定の主な内容は、以下のとおりです。

① 温度目標

世界全体で、地球平均気温の上昇を産業革命前から2℃を十分に下回るように取り組む。1.5℃にも努力する。

② 長期目標

世界全体の排出量をできるだけ早くピークアウトさせ、21世紀後半には排出量をゼロに近づける。

③
国別目標
の向上

すべての国が削減目標を5年毎に、目標を見直し、向上させる。約1年前には目標案を出し、進捗状況を確認する。

④
目標の
見直し

2018年に目標の見直し議論をはじめ。途上国もできるだけ早く、総量での削減目標とする。

⑤
途上国支援

先進国は途上国の削減、適応対策を資金や技術で支援する

長期目標の共有と5年毎の見直しサイクルを稼働させる仕組みは法的拘束力をもって運営されることから、削減に前向きの競争を促す機能が期待されているものです。

■ パリ協定採択の背景

第1に、世界では温暖化対策は待ったなし、となっていることです。21世紀に入って温暖化による被害が急激に目に見えるものになりました。とりわけここ数年、世界中で大洪水、高潮、斜面崩壊、旱魃、大規模山火事といった異常事象が頻発しています。温暖化への適応対策も不可欠ですが、特に気候変動に脆弱な地域では適応しようのない被害（損失と損害とよばれています）の侵襲を受けるまでになりました。産業革命前から平均気温で3℃～4℃も上昇した世界になれば人類の生存も危うくなるという危機感が世界に共有されてきました。

第2に、IPCCの報告などで、世界全体で排出できる温室効果ガスの上限が示されてきました。他方で、途上国からの排出が想定を超える速度で急増しており、先進国だけでなく途上国も削減努力の必要性が共有されてきました。

第3に、京都議定書採択以降の新たな挑戦によって、省エネ技術も拡大・普及し、とりわけ再生可能エネルギーのコストが急激に下がり、経済的にも合理的な対策として選択されるようになったのです。途上国では、広範な送電網がいない地域分散型電



源は貴重です。

第4に、今回の推進役は米国と中国でした。EUだけでなく、米、中、その他の途上国やビジネス界も、既にパリ協定を軸に、各国内で対策を進めていくでしょう。議長国フランスの調整力も見上げたものでした。

■ パリ協定と私たちの課題

パリのCOP21の会議場で最も繰り返された言葉は、「明日から始めよう」。国や自治体は市民や事業者の活動を支え、促進する制度づくりが求められます。京都府地球温暖化防止活動推進センターに集う皆様には、中小事業者の対策、建物対策、再生可能エネルギーの利用などで、一層、地域とともに効果的な対策の推進役となっていくことが期待されています。

気候ネットワーク
代表 浅岡美恵

※「京都府エコエネルギー戦略」（平成25年度策定）は、基本方針として、原発に依存しない社会を目指すとともに、府民の生活の安心・安全を守り、経済活動を維持発展させることが可能なエネルギーの安定確保を図るため、「エネルギー自立・京都」を目指すことを掲げています。

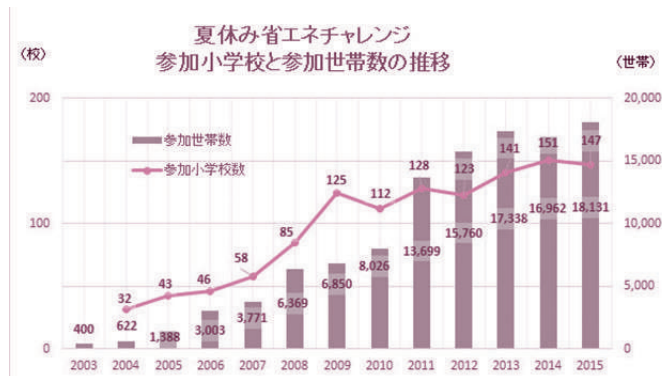
夏休み省エネチャレンジ2015 表彰式を開催しました

2015/12/13



当センターでは、2015年度も京都府からの委託を受けて、夏休み省エネチャレンジ事業を実施しました。この事業は、小学生やその保護者に夏休みの1週間省エネを実践してもらう取組です。

多くの皆様のご協力の結果、今年度は147校、18,131世帯に取組んでいただくことができました。これは家族人数で考えると約5万人以上の方にご参加いただいたことになります。また、1週間で約55トンの二酸化炭素を削減することができました。



夏休み省エネチャレンジの実施にあたって、優秀な結果をおさめた小学校を表彰する「学校参加キャンペーン」も実施。12月13日に京都環境フェスティバル2015のステージイベントで表彰式を行い、京都府知事からの賞状が授与されました。

また、キャンペーンにあたっては、エスパック株式会社、大阪ガス株式会社、株式会社京セラソーラーコーポレーション、ケニス株式会社、ホリモク株式会社より、特賞として、学校での環境教育に活用できる教材をご提供いただき、各部門の優秀校へ贈呈されました。



優秀校

二酸化炭素削減量部門

(二酸化炭素削減量第1位)

城陽市立久世小学校
(約1 t 814kg)

平均得点部門

(平均得点数第1位)

宇治市立笠取第二小学校
(約92.3点)

参加児童率部門

(参加児童率第1位)

※全校全員で取り組んだ学校

綾部市立上林小学校
綾部市立吉美小学校
綾部市立西八田小学校
綾部市立物部小学校
宇治市立笠取小学校
宇治市立笠取第二小学校
木津川市立恭仁小学校
木津川市立城山台小学校
京都市立花背小学校
相楽東部広域連合立
笠置小学校
長岡京市立神足小学校
与謝野町立三河内小学校
(五十音順)
の計12校

特賞受賞校



【エスベック賞】
ゴーヤ先生の授業と
みどりのカーテン
宇治市立笠取第二小学校
(平均得点部門)



【大阪ガス賞】
燃料電池実験セット
綾部市立吉美小学校
(参加児童率部門)



【京セラ賞】
太陽光発電体験キット
木津川市立城山台小学校
(参加児童率部門)



【ケニス賞】
手回し発電機10個セット
相楽東部広域連合立
笠置小学校
(参加児童率部門)



【ホリモク賞】
京都府産ヒノキおんだんかぼうし
どうぶつしょうぎ20個セット
城陽市立久世小学校
(二酸化炭素削減量部門)

夏休み省エネチャレンジの報告を行います

ぜひお越しください

京都府立大学と当センターが連携して実施したプロジェクトの成果報告会を下記の日程で開催します。夏休み省エネチャレンジ2015の分析結果等についても報告しますので、皆様のご来場をお待ちしております。

2015年度 京都府立大学 ACTR

「住まいと住まい方における温暖化防止活動に関する研究」成果報告会

日時 2016年2月19日(金)
14:00～16:30

場所 京都府立大学内
稲盛記念会館106講義室

参加費 無料
事前申込不要

報告演題

- ① 「簡易断熱・シェード等による省エネルギー化」報告
ーホームセンターで買える資材による住まいの省エネ化・快適化ー
- ② 「2015年度夏休み省エネチャレンジ」に関する調査報告
- ③ 町家型住宅の夏期・冬期の居住環境評価と温熱環境実態に関する報告
- ④ 2015年度の成果と今後の課題

report

1

低炭素食材で未来を選ぼう！ 低炭素食材選択キャンペーンを実施しました。



左:写真1
右:写真2

「低炭素食材」とは当センターが作った造語です。私たちは、地元でとれた旬の食材、環境に配慮して生産した食材を「低炭素食材」と位置づけました。なぜなら、地産地消は輸送によるCO₂削減に、旬の食材、環境に配慮して生産した食材は、生産によるCO₂削減に繋がるからです。

「低炭素食材」を意識して選ぶことがCO₂削減に繋がることをPRするため、12月の地球温暖化防止月間にあわせて、低炭素食材選択キャンペーンを行いました。京都府内から企業・行政・NPOなど合わせて15社が参加し、それぞれの食堂で「低炭素食材」を積極的に提供しました。宇治市役所食堂では、宇治市産の野菜を使ったメニューが12月3日・4日に登場。大阪ガス京滋事業所では、九条ネギたっぷりのラーメンが提供されました(写真1)。タツタ電線株式会社では、木津川市と福知山市の2カ所の事業所

で社員食堂内にサラダバーが作られ、京都府産の有機栽培野菜が提供されました(写真2)。龍谷大学紫英館グリルでは、11月30日～12月4日の1週間、「丹波鹿カツセット」と「鹿カツカレー」が初登場しました。参加した企業・団体は、本キャンペーン啓発チラシを利用するなどそれぞれ工夫し、社員に対して「低炭素食材キャンペーン」のPRを行いました。

また、12月12日(土)・13日(日)には伏見区京都市パルスプラザで開催された京都環境フェスティバルにて、今回のキャンペーン啓発スタンプラリーを実施。併せて12月11日(金)の京都新聞朝刊で10万世帯に対して折込チラシを配布し、「食の選択が低炭素社会を作る選択になる」ことを広くアピールしました。

詳細についてはHPをご覧ください

<http://www.kcfca.or.jp/food/>

参加企業・団体リスト

宇治市役所（HAPPYCOOK典座/株式会社典座）、エスベック株式会社福知山工場（株式会社魚国総本社）、NPO法人オーガニック・ライフ・コラボレーション、大阪ガス株式会社京滋事業所（KRPカフェテリア/ロイヤルコントラクトサービス株式会社）、NPO法人加茂女（かもめの台所）、京都信用金庫（エムサービス株式会社）、有限会社京フーズ（遊食郎 種智院大学店）、有限会社けいはんな淡彩（薬膳レストランあわさい）、株式会社島津製作所（北食堂/株式会社魚国総本社、南食堂/グリーンホスピタリティフードマネジメント株式会社）、タツタ電線株式会社タツタテクニカルセンター、株式会社典座、日本電産株式会社（N's Dining/西洋フード・コンパスグループ株式会社）、株式会社不二家商事（京都学園大学白雲ホールリブレ、京都光華女子大学瑞風館食堂、京都女子大学A校舎食堂、京都精華大学食堂、京都造形芸術大学食堂、京都府立大学Delicafeたまご京都北山）、株式会社堀場製作所（株式会社典座）、龍谷大学生活協同組合（紫英館グリル）

（以上 五十音順、参加企業・団体名の後のカッコ内は食堂名/運営会社名）

2015/12/12, 13

in京都パルスプラザ

京都環境フェスティバル2015に出展しました

当センターのブースでは、3つのコーナーを設置しました。

低炭素食材キャンペーンコーナー

キャンペーン関連団体5ブースをまわるスタンプラリーを実施。それぞれの団体がどのような取組をしているのかを見て・体験していただきました。合計250人以上の方にご参加いただきました。ご家庭でも、地産旬食を選んでいただくきっかけになればと思っております（キャンペーンの詳細については6ページを参照）。

誤解の多い省エネ術クイズコーナー

来場者に6問のクイズに挑戦してもらいました。節湯することで給湯エネルギーを削減する等の内容に驚きの声も。また同時に簡単なアンケートにも答えていただき、合計247名にご参加いただくことができました。



写真

上／アドバイスに熱心に耳をかたむける参加者（家庭の省エネ相談所）

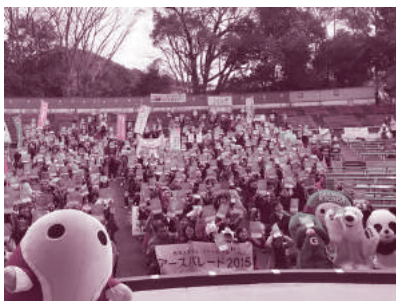
下／クイズに挑戦中（誤解の多い省エネ術クイズコーナー）

夏休み省エネチャレンジ紹介コーナー

子ども達がこの夏に取組んだ夏休み省エネチャレンジの結果や感想の紹介や、協賛企業からご提供いただいた特賞（環境教材）の展示などを行いました。

また、主催者コーナーとして、「省エネ普及ネット・京都」と連携して“家庭の省エネ相談所”を実施。合計384名もの方にご参加いただきました。多くの京都府地球温暖化防止活動推進員（以下、推進員）がアドバイザーとして大活躍されていました。

推進員、特別推進員、センター職員も参加しました



COP21に祈りを込めて、アースパレード京都

気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）の前に、「世界各国の首脳たちに、気候をまもる決断をするよう訴えたい」と、世界各地で市民アクションが行われました。

日本では、11/28は東京で1000人が、そして11/29は京都で600人が集合し、「アースパレード2015」を開催（主催：Climate Action Now!キャンペーン実行委員会）。

京都会場の円山公園音楽堂には、府内各地から推進員の皆さんが参加し、特別推進員の「まゆまる」「エコちゃん」「ゴーヤ先生」の姿も！当センター職員有志も、家族連れで参加しました。パレードの途中、たくさんの市民や観光客の方が手を振ったり、「Good」とサインを送ってくれました。

写真

上／メッセージボードを掲げ記念撮影（写真提供：気候ネットワーク）
下／市民600人が円山公園を出発！

開催します！